

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

2026年3月31日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 203-0031

所在地 東京都東久留米市南町1-13-38

評価機関名 株式会社ふくし・ファーム

認証評価機関番号

機構 04 - 134

電話番号 03-3332-3334

代表者氏名 加藤 正樹



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	加藤 正樹	福祉	H0601051
	②	中野 航太	経営	H2001058
	③	城本 有理	福祉	H2401056
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認定こども園			
評価対象事業所名称	やよいこども園			
事業所連絡先	〒	164-0013		
	所在地	東京都中野区弥生町1-58-14		
	TEL	03-5358-0901		
事業所代表者氏名	倉持 道子			
契約日	2025年 11月 21日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025年 12月 3日			
利用者調査結果報告日	2026年 1月 10日			
自己評価の調査票配付日	2025年 12月 3日			
自己評価結果報告日	2026年 1月 10日			
訪問調査日	2026年 2月 17日			
評価合議日	2026年 3月 17日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	事前説明には、評価の理解を深めていただくため、評価の全体像や具体例を用いた分かりやすい資料を作成し、ていねいに説明を行いました。事業評価においては、自己評価の事実確認に徹し、第三者性の担保に配慮しました。また、利用者調査および事業評価の集計結果は、独自開発による集計シートを用い、グラフ・表により分かりやすく報告しました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ◎ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2026年 3月 31日

事業者代表者氏名 学校法人 常盤学園
やよいこども園
理事長 小山 貴好



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1) 法人理念「みんなでみんなをみていく」・・・子どもと子ども、子どもと大人、大人と大人等、様々な関係性を深めていく実践を目指す 2) 「子どもが主体的に考え・学ぶこと」を重視した豊かな環境を大切にす。そして友だちと対話をし認め合いながら、主体的に考えて行動でき、自分たちで解決できる子を育てる 3) 対話を通して共に感覚を磨き関係性を深めていくため、子ども主体で対話的な保育の実践を探る 4) 創造的なコミュニティを目指し、子ども主体で対話的な保育実践を通して子ども理解を深める 5) 子どもを中心として様々な人が参画し、地域コミュニティの拠点となる施設を目指す</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1) 職員に求めている人材像や役割</p> <p>○子ども主体の保育を深めようとする ○子どもが持つ能力が発揮されるよう環境構成を考え、日々の生活・遊びを子どもと共に創り上げていく ○対話を通して共に学び共に刺激し合いながら成長していくことができる関係性を構築していく</p> <p>(2) 職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>○子どもの人権を尊重し、子どもを侮らない。子どもを通して成長していく ○実践や研修を通して保育の資質を高めていく ○子どもを導きながら見守り、子どもの主体性を尊重する</p>

調査対象

調査対象は、在園児の保護者全員を対象とし、複数のお子さんが通っている場合は最年少児について、1世帯1回答のご回答をいただきました。
[調査対象世帯数：120世帯(在園児131名)]

調査方法

園より保護者全員に調査票を配布して頂きました。回収については、評価機関への郵送、または園内に設置した回収箱への投函により提出して頂くようにしました。

利用者総数

131

利用者家族総数(世帯)

120

共通評価項目による調査対象者数

120

共通評価項目による調査の有効回答者数

73

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

60.8

利用者調査全体のコメント

「現在利用している保育園を総合的にみて、どのように感じていますか」との質問に対して、「大変満足」38.4%、「満足」46.6%、「大変満足」と「満足」を合わせて84.9%の回答率となっています。「どちらともいえない」8.2%、「不満」4.1%、「大変不満」2.7%、無回答が0%でした。
(1号)個別設問では、問1「活動への興味や関心を示し、学びや遊びを楽しんでいるか」をはじめ、問2・3・10について「はい」の回答率が94.7%と高く、問17「外部の苦情窓口にも相談できることを伝えられているか」では「はい」の回答率が31.6%と最も低くなっています。
(2・3号)個別設問では、問3「提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか」について「はい」の回答率が92.6%で最も高く、問17「外部の苦情窓口にも相談できることを伝えられているか」では「はい」の回答率が25.9%と最も低くなっています。

利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 運動や休息の配分は、子どもの発達の状態や在園時間に応じて工夫されているか	61	8	4	0
(1号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の84.2%を占め、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が15.8%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。 (2・3号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の83.3%を占め、「どちらともいえない」が14.8%、「いいえ」が1.9%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、改善を期待する声が複数寄せられました。				
2. 園での活動は、子どもの教育や心身の発達に役立っているか	63	9	1	0
(1号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の94.7%を占め、「どちらともいえない」が5.3%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。 (2・3号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の83.3%を占め、「どちらともいえない」が14.8%、「いいえ」が1.9%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
3. 園での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	64	9	0	0
(1号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の94.7%を占め、「どちらともいえない」が5.3%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。 (2・3号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の85.2%を占め、「どちらともいえない」が14.8%、「いいえ」が0%、「無回答＋非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				

4. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	68	3	2	0
(1号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の94.7%を占め、「どちらともいえない」が5.3%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。 (2・3号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の92.6%を占め、「どちらともいえない」が3.7%、「いいえ」が3.7%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
5. 園の生活の中で、身近な自然や社会と十分関わっているか	52	18	3	0
(1号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の73.7%を占め、「どちらともいえない」が15.8%、「いいえ」が10.5%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。 (2・3号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の70.4%を占め、「どちらともいえない」が27.8%、「いいえ」が1.9%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
6. 保育時間の変更が急ぎよ必要になった場合、開園時間内において、園の可能な限り、柔軟に対応されていると思うか	50	9	2	12
(1号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の63.2%を占め、「どちらともいえない」が10.5%、「いいえ」が5.3%、「無回答+非該当」は21.1%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。 (2・3号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の70.4%を占め、「どちらともいえない」が13.0%、「いいえ」が1.9%、「無回答+非該当」は14.8%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
7. 安全対策が十分取られていると思うか	55	16	2	0
(1号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の68.4%を占め、「どちらともいえない」が31.6%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。 (2・3号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の77.8%を占め、「どちらともいえない」が18.5%、「いいえ」が3.7%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
8. 園の活動に保護者が参加しやすいよう、工夫されているか	44	22	7	0
(1号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の68.4%を占め、「どちらともいえない」が26.3%、「いいえ」が5.3%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、改善を期待する声が複数寄せられました。 (2・3号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の57.4%を占め、「どちらともいえない」が31.5%、「いいえ」が11.1%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
9. 子どもの教育・保育について家庭と園に信頼関係があるか	61	10	2	0
(1号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の89.5%を占め、「どちらともいえない」が5.3%、「いいえ」が5.3%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。 (2・3号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の81.5%を占め、「どちらともいえない」が16.7%、「いいえ」が1.9%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、改善を期待する声が複数寄せられました。				
10. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	65	4	4	0
(1号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の84.2%を占め、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が15.8%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。 (2・3号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の90.7%を占め、「どちらともいえない」が7.4%、「いいえ」が1.9%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、自由記述では、多様な意見が寄せられました。				

11. 職員の接遇・態度は適切か	66	7	0	0
(1号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の94.7%を占め、「どちらともいえない」が5.3%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。 (2・3号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の88.9%を占め、「どちらともいえない」が11.1%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
12. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	62	8	0	3
(1号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の89.5%を占め、「どちらともいえない」が5.3%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は5.3%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。 (2・3号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の83.3%を占め、「どちらともいえない」が13.0%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は3.7%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
13. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	47	18	2	6
(1号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の63.2%を占め、「どちらともいえない」が21.2%、「いいえ」が5.3%、「無回答+非該当」は10.5%という結果でした。自由記述では、改善を期待する声が複数寄せられました。 (2・3号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の64.8%を占め、「どちらともいえない」が25.9%、「いいえ」が1.9%、「無回答+非該当」は7.5%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
14. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	62	10	1	0
(1号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の89.5%を占め、「どちらともいえない」が10.5%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。 (2・3号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の83.3%を占め、「どちらともいえない」が14.8%、「いいえ」が1.9%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
15. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	55	10	0	8
(1号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の84.2%を占め、「どちらともいえない」が5.3%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は10.5%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。 (2・3号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の94.7%を占め、「どちらともいえない」が5.3%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。				
16. 教育・保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	51	16	5	1
(1号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の68.4%を占め、「どちらともいえない」が26.3%、「いいえ」が5.3%、「無回答+非該当」は0%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。 (2・3号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の70.4%を占め、「どちらともいえない」が20.4%、「いいえ」が7.4%、「無回答+非該当」は1.9%という結果でした。自由記述では、多様な意見が寄せられました。				
17. 利用者の不満や要望は対応されているか	53	9	4	7
(1号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の68.4%を占め、「どちらともいえない」が21.1%、「いいえ」が0%、「無回答+非該当」は10.5%という結果でした。自由記述では、特筆すべき意見はありませんでした。 (2・3号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の74.1%を占め、「どちらともいえない」が9.3%、「いいえ」が7.4%、「無回答+非該当」は9.3%という結果でした。自由記述では、改善を期待する声が複数寄せられました。				

18. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	20	14	33	6
<p>(1号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の31.6%を占め、「どちらともいえない」が15.8%、「いいえ」が42.1%、「無回答+非該当」は10.5%という結果でした。自由記述欄に寄せられた意見はありませんでした。</p> <p>(2・3号)この項目では、「はい」と答えた方が全体の25.9%を占め、「どちらともいえない」が20.4%、「いいえ」が46.3%、「無回答+非該当」は7.4%という結果でした。自由記述では、特筆するべき意見はありませんでした。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
カテゴリ1		
1	リーダーシップと意思決定	
サブカテゴリ1(1-1)		
事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当
カテゴリ1の講評		
<p>園の保育理念・方針については、会議や入園説明会で、職員・利用者に説明しています</p> <p>園の保育理念は「子ども一人ひとりに生きる力を育み、未来に夢や希望を持てるように、家庭や地域社会と連携して教育および保育を一体的に行う」とし、保育目標は「いいあたま、やさしいこころ、じょうぶなからだ、がまんづよいこ」と定めています。園の理念やビジョンについて職員への理解を深めるため、職員会議や園内研修では具体的な事例を交えて分かりやすく説明しています。また、保護者には重要事項説明書に記載するとともに、入園説明会で園長が直接説明して伝えています。</p> <p>経営層は処遇改善や業務の効率化を図り、働きやすい職場作りを進めています</p> <p>園長は、職員の心の安定と意欲向上を最も重要な役割と考え、職員会議などでその思いを伝えています。日頃から職員とのコミュニケーションを大切に、子どもに対する伝え方や関わり方について具体的に助言を行っています。経営層は、園が目指す教育・保育の実現に向けて、処遇改善を進めるとともに、ICTアプリの積極的な活用による業務の効率化などに取り組み、職員が働きやすく、意欲を持って保育に取り組める職場環境づくりを進めています。</p> <p>園内の重要案件は、管理職会議で検討し、保護者には保護者会や書面で周知しています</p> <p>法人の重要な案件を検討する場として、法人内園長会議を設けています。また、園の重要な案件を検討する場として管理職会議も設けており、園長、主任、幼児リーダー、乳児リーダーが参加しています。最近、法人内で検討し職員に周知した重要案件としては、「給与規程の見直し」などがあり、これらは職員会議や朝礼を通じて伝えています。一方、保護者に対して周知したサービス変更の事例としては、「ICTアプリの導入」や「運動会の開催場所の変更」などがあります。これらの情報は、保護者会やおたよりでいねいに周知しています。</p>		

カテゴリ2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ2の講評		
<p>アンケートや個別面談などを通して、利用者・職員のニーズを定期的に把握しています</p> <p>行事アンケートや個別面談などを通じて、利用者のニーズを把握しています。その結果、誕生日会に保護者も参加できるようにするなどの工夫を行い、新たに保育参加の機会も設けています。また、個別面談を通じて職員のニーズも把握しています。最近では、職員が十分に休憩を取れるよう、各職員の休憩時間を設定し、子どもから離れて職員室で食事をとれる環境としています。</p> <p>「職員間の連携強化」と「保護者との信頼構築」を優先度の高い課題として捉えています</p> <p>保幼小連絡協議会や、町会・小学校・児童館・民生委員などが参加する懇談会に参加し、地域の福祉ニーズを把握しています。また、福祉事業全体の動向を把握するため、全国こども園協会・東京都私立幼稚園協会・中野私立保育園協会などのネットワークに参加するほか、業界誌の購読も行っています。これらの事業環境の分析を通じて、「職員間の連携強化」や「保護者との信頼関係の構築」を、優先度の高い課題として捉えています。</p> <p>単年度の計画は、園長・主任を中心に作成し、年度初めの職員会議で説明しています</p> <p>中・長期の計画は、3年を単位とした計画として策定しています。単年度の計画は、前年度末に園長・主任を中心に作成し、「主体的保育の実践」を重点目標としています。その内容は年度初めの職員会議で園長が説明し、職員に伝えています。また、計画の進捗状況も職員会議で随時共有しています。計画を見直す場合は、園長・主任会議で検討し、最終的な判断は園長が行っています。</p>		

カテゴリ3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当
サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

就業規則を整備し、入職時研修でコンプライアンスについて説明しています

法人職員および保育職員が守るべき法や規則について、就業規則を整備しています。関係書類は職員室内のキャビネットに保管するとともに、園長・主任・乳児リーダー・幼児リーダーが中心となって入職時研修を実施し、職員の理解を深めています。さらに、「人権擁護のためのセルフチェックリスト」で理解度を確認し、必要に応じて園長による面談などで支援を行っています。

虐待が疑われる事例が生じた際には、児童相談所と連携して対応しています

苦情があった際には、主任が受け付け、園長が解決にあたる体制を整えています。この体制や役割については、重要事項説明書で保護者に伝えています。意見や要望には、「意見・苦情対応マニュアル」に沿って対応し、口頭やおたより、保護者会などを通じて回答しています。また、職員が子どもに対して適切に関わるための理解を深める目的で、年1回園内研修を実施しています。さらに、虐待が疑われる事例が生じた場合には、区の「虐待発見時対応マニュアル」に従い、児童相談所などの関係機関と連携して対応しています。

入園が決まった家庭を対象に、保育体験や給食体験会などの子育て支援を行っています

ボランティアなどを受け入れる際には、主任が対応し、保育補助などの活動機会を提供しています。前年度は、実習生2名の受け入れに加え、職場体験として小学生1名を受け入れました。地域貢献の取り組みとして、入園が決まった家庭を対象に子育て支援「ばんだ組」を年10回実施しています。内容としては、運動遊び・制作・プール遊びのほか、給食体験会を企画しています。これらの実施については、ホームページなどを通じて周知しています。

カテゴリ-4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>定員割れ・職員不足・園舎の劣化などを優先リスクと捉え、具体的な対策を講じています 運営に係るリスクとして、「園児の定員割れ」「職員不足」「園舎の劣化・老朽化」などを挙げています。これらのリスクに対応するため、園児確保の観点では、園の見学日程を見直し、なるべく多くの人が参加できるよう日程を増やす取り組みを行っています。職員確保のためには、処遇改善を進めるなど職員が働きやすい環境づくりに取り組んでいます。また、園舎の維持・管理については、法人本部内の施設・設備管理部署と連携し、計画的にメンテナンスを実施しています。</p> <p>首都直下型地震・水害・感染症を想定した事業継続計画(BCP)を作成しています 災害や深刻な事故などに備え、首都直下型地震・水害・感染症を想定した事業継続計画(BCP)を作成しています。復旧期間は約2週間と設定し、3日分の防災備蓄品を備えています。危機管理の方法やBCPの内容については、職員会議で職員に周知し、保護者会などで利用者にも説明しています。事故・感染症・不審者の侵入・災害などが発生した場合は、事故報告書・ヒヤリハット報告書・保育日誌などに記録し、発生要因は主に管理職会議で分析します。その上で、再発防止策を一斉メールや玄関掲示を通じて利用者に報告しています。</p> <p>機密情報には閲覧制限とパスワードを設け、適切に管理しています 情報の収集・利用・保管・廃棄については、個人情報保護規程で定めています。その内容は入職時研修で説明し、職員の理解を深めています。また、職員誓約書を取り交わし、情報管理や文書管理の遵守を求めています。個人情報や機密性の高い文書は職員室の金庫に保管し、電子データにはIDとパスワードによるアクセス制限を設けています。文書の閲覧は職員室内に限定するなど条件を設け、機密文書を破棄する際はシュレッダーを使用しています。</p>		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 10/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(●●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
○あり ●なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリー5の講評

職員の採用は、年齢構成や人柄を重視し、ホームページなどで広く募集しています

職員の採用にあたっては、年齢構成や人柄などを重視しつつ、ホームページの採用専用ページのほか、友人紹介、養成校の交流会への参加、求人票の送付など、多様な方法で求職者の応募を促しています。あわせて、職員の育成や将来の人材構成を見据え、動向調査や個別面談などを通じて職員の意向を把握しています。

園内に加え、キャリアアップや連合会主催研修に参加し、職員の能力向上を図っています

職員のスキルアップを図るため、園内研修に加え、キャリアアップ研修や区の私立幼稚園連合会主催の研修にも積極的に参加しています。幼稚園連合会の研修は毎月行われ、年度末には各園での取り組みを発表する機会も設けられています。今年度のテーマは「子どもの遊びと学力」です。また、主体的な保育の実践を深めるため、各種会議では意見交換の場を多く設けています。直近では、ホールやビオトープの活用方法や職員間の連携について話し合う機会を持ち、園全体で理解を共有しています。

職員の育成と評価は、自己評価を参考にしながら、個別面談などを通じて行っています

職員の育成と評価は、自己評価を参考にしながら、個別面談などを通じて行っています。福利厚生としては、退職金制度や借り上げ住宅制度に加え、私学共済による各種福利厚生を取り入れています。また、職員の定着率向上を目的に、事務作業の時間を確保するなどの配慮も行っています。職員の意識については、個別面談で把握に努めるとともに、年2回の親睦会を通じて働きがいや意欲向上に取り組んでいます。加えて、親睦会により職員間の良好な人間関係の構築も図っています。

カテゴリ7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリ1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>前年度は、「幼稚園コース(1号認定)の定員割れ」を重要課題の一つとして掲げました。その対応として、ホームページで園の取り組みや子どもたちの様子を発信するとともに、入園説明会ではスライドを使って園の様子を詳しく紹介し、給食体験会も実施しました。また、入園前の子育て支援として「ばんだ組」を実施しました。これらの取り組みにより、説明会の参加者が増え、入園につながる成果も見られました。今後は、SNSを活用した情報発信も検討しています。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>前年度における「幼稚園コース(1号認定)の定員割れ」という課題に対し、ホームページでの情報発信や入園説明会でのスライド活用、給食体験会の実施、さらに入園前の子育て支援「ばんだ組」の導入など、多面的な取り組みを行った点は評価できます。これにより、説明会参加者の増加や入園につながる成果が得られたことは、課題解決に向けた具体的な効果として示されています。今後、SNSを活用した情報発信も検討していることから、地域や保護者への情報提供の幅をさらに広げ、園の魅力や特色をより多くの人に伝えられる体制づくりが期待されます。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

前年度は、「職員不足」を重要課題の一つとして掲げ、常勤職員4名の確保を目標にしました。その達成に向け、園長・主任を中心に採用活動を進め、ホームページや有料求人媒体に加え、人材紹介会社の活用や養成校交流会への参加など、多角的な取り組みを行いました。その結果、常勤2名を採用できましたが、目標には届きませんでした。この要因として、養成校の情報収集が十分でなかったため、一部の学校にしか情報提供ができなかったことが挙げられます。今年度は、養成校への積極的なアプローチや友だち紹介制度の導入などにより、採用活動を強化しています。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

前年度は「職員不足」を課題として、常勤職員4名の確保を目標に掲げ、園長・主任を中心にホームページや求人媒体、人材紹介会社、養成校交流会など、多方面から採用活動に取り組んだ点は評価できます。その結果、常勤2名の採用にはつながったものの、目標には届きませんでした。養成校への情報提供が限られていたことが一因と考えられます。今年度は友だち紹介制度を新たに導入し、採用活動を強化しながら、職員の定着にもつなげていくことが期待されます。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリ-1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当	
サブカテゴリ-1の講評			
<p>入園のしおりやホームページは写真を多く取り入れ、園情報をていねいに発信しています</p> <p>園の情報提供として、入園のしおりやパンフレットを発行し、「保育理念・方針・一日の流れ・年間行事・園の概要・案内マップ」などを紹介しています。ホームページには「園について・入園案内・園での1年間・園の一日」などのコンテンツを設け、写真を多く掲載することで、園の取り組みや様子が伝わるよう工夫しています。また、園だよりなどは希望する方に配布またはメールで送付しています。さらに、園の情報は行政や関係機関でも入手でき、区のホームページには園の概要や空き状況が掲載されています。</p> <p>見学会は月2～3回実施し、園内の案内しながら園の特徴を分かりやすく説明しています</p> <p>見学者対応は主任が担当し、月2～3回、あらかじめ定めた日程で実施しています。日程はホームページで周知し、電話で受け付けています。日程の調整が難しい場合は、個別にも対応しています。見学時には、都心にありながら広い園庭を有していることや、季節の木の実を収穫して食育に生かしていることなど、園の特徴を分かりやすく説明しています。</p>			

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの指導・援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリ-2の講評		
<p>入園説明会を行い、サービス内容やプライバシー保護について説明・同意を得ています 入園が決まった利用者には、「入園のしおり兼重要事項説明書・児童票・緊急連絡先・慣れ保育のスケジュール・食材チェック表」などの入園書類一式を用意し、入園説明会で配布しています。2月中旬に開催する入園説明会では、園生活の様子をプロジェクターで上映し、保育内容を分かりやすく伝えています。サービス内容は重要事項説明書で説明し、プライバシー保護については個人情報取扱同意書で同意を得ています。さらに、入園前の個別面談や個別質問票により保護者の意向を把握し、記録しています。</p> <p>子どもの不安やストレスを軽減するため、7～10日程度の慣らし保育を設けています サービス開始にあたり、アレルギーや既往歴など子どもの健康状態を「健康状況・生活状況調査票」で把握しています。そのうえで、子どもの不安やストレスが軽減されるよう、慣らし保育の期間を1週間～10日間を目安に設定しています。期間や時間は就労状況や子どもの様子に応じて、保護者と相談しながら調整しています。慣らし保育中は登園時に家庭での様子を聞き取り、お迎え時に園での状況を伝え合うことで、保護者の理解と安心につなげています。</p> <p>退園や卒園時には、情報の引き継ぎと温かな見送りをていねいに行っています 卒園前に退園や転園をする園児には、各クラスでお別れの時間を設け、職員による寄せ書きを贈っています。転園時には、必要に応じて認定子ども園指導要録を転園先へ送付し、園児の情報を引き継いでいます。卒園児には、証書・祝い菓子・卒園アルバムを年度明けに手渡しています。</p>		

サブカテゴリ-3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画(教育課程を含む)や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画(教育課程を含む)を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、指導の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な指導・援助内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、指導・援助を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、指導事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリ-3の講評

子どもの心身状況や生活状況についてはICTアプリで記録・管理しています

子どもの心身の状況や生活状況を把握するため、全クラスで保育日誌に子ども一人ひとりの記録欄を設けています。0～2歳児クラスでは連絡帳を毎日取り交わしています。個人記録も作成し、これらの記録はICTアプリで管理しています。個別の保育目標は個人月案や個人記録に、家庭のニーズや支援方針は個人面談記録やクラス会議記録に記録しています。さらに、児童票には全園児の姿を毎月集約して記録しています。

全体的な計画を基に、年・月・週を単位とした指導計画を作成しています

「全体的な計画」は2022年4月1日に主に保育内容を更新し、これに基づき年・月・週単位の指導計画を作成しています。作成時には、落ち着きのない子どもが増えている状況を踏まえ、環境やクラス運営を見直し、落ち着いた生活が送れるよう対策を講じています。個別計画は0～2歳児や配慮が必要な子どもを対象に作成しています。保護者には園だよりで子どもの様子や活動を伝え、希望に応じて写真やプロジェクターで説明しています。計画内容は学年会議や職員会議で見直し、必要に応じて部会の変更を決定し、達成状況は学年会議で評価しています。

定例会議やICTアプリなどを通じて、子どもに関する情報を職員間で共有しています

子どもに関する情報を共有するため、月1回、園長・主任・常勤職員（幼児・乳児リーダー、保育教諭、看護師、栄養士、調理師、体育講師）が参加する職員会議を開催しています。加えて、園長・主任会議やクラス会議、給食会議などの定例会議も行い、毎日15分程度の朝礼で状況を確認しています。子どもや保護者の様子は朝礼ノートやICTアプリで共有し、必要に応じて臨時職員会議や幼児部・乳児部会で情報を整理しています。さらに、クラス会議や園内研修で事例を持ち寄り、子どもの成長の捉え方をテーマに話し合っています。

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した指導・援助を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の教育・保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した指導・援助を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<p>子どもの羞恥心への配慮として、環境を整えるとともに着替えの指導を行っています</p> <p>個人情報については入園説明会で説明し、「個人情報取り扱い同意書」により同意を得ています。突発的に提供が必要な場合も、状況に応じて同意を求めています。子どもの羞恥心に配慮し、着替え時はカーテンで外部から見えないようにし、5歳児クラスからは男女に分かれて行っています。また、着脱時には上下一緒に脱がないよう指導しています。プライベートゾーンについても、子どもと話す機会を設けています。</p> <p>各家庭の状況に応じて、生活や食習慣に配慮した対応を行っています</p> <p>子ども一人ひとりを尊重する姿勢は、子どもの権利マニュアルに示し、職員会議や事例共有を通して理解を深めています。最近では「子どもへの声かけの仕方」をテーマに学びました。子どもや保護者の価値観・生活習慣に配慮するため、行事アンケートや区の満足度調査、個別面談などを通して保護者の意向を把握しています。トイレトレーニングや給食では、無理強いせず、家庭や子どもに寄り添った対応を心がけています。</p> <p>虐待防止に向けた研修や振り返りを通して、職員の意識向上に努めています</p> <p>虐待や育児困難などの事案には、「虐待防止マニュアル」に基づき対応しています。適切な対応に備え、他園の事例を用いた園内研修や外部研修に参加し、知識と対応力を高めています。職員が自らの行動を振り返る機会として、「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を活用し、学年会議やクラス会議で話し合いを行っています。また、虐待に関する報道があった際には内容を共有し、日常の関わりを見直す機会としています。</p>		

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
<p>評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
<p>評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリー6の講評		
<p>連絡帳の記入方法や戸外活動時の人数確認の方法を見直すなど、業務改善に努めています</p> <p>業務の標準化を図るため、法人として保育実践マニュアルや事故防止マニュアルなどを整備し、園独自にお散歩マニュアルも作成しています。業務の実施状況は園長・主任が中心となって確認しています。保育実践マニュアルは職員へ配布し、随時説明を行うことで理解の浸透を図っています。マニュアルの見直しは、主に法人内の園長会を通じて行っています。また、保護者の声を受けて連絡帳の記入方法を見直したほか、職員の声を受けて園庭での戸外活動時の人数確認方法を改善するなど、業務改善にも取り組んでいます。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 36/36	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた指導・援助を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで指導・援助している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当	
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の教育・保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう指導・援助している	○非該当	
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	6. 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、指導・援助している	○非該当	
評価項目1の講評			
<p>生活や遊びに応じた環境を設定し、子どものやりたい気持ちを尊重しています 園内には、季節ごとに実なる木、ピオトープ、砂場、アスレチックなどのある園庭やホールが整備されており、こうした環境の中で子ども主体の保育を行っています。0～2歳児クラスには、発達に応じた手作り玩具や落ち着ける場所、十分に体を動かせる空間を用意し、3～5歳児クラスでは自分のやりたい活動を選び、クラス間を自由に行き来できるようにしています。玩具は年齢や活動に応じて入れ替え、片付け場所は写真で示すなど工夫しています。</p> <p>日常的な異年齢交流を通じて、思いやりや憧れの心を培っています 日常的に異年齢交流を行い、年上の子どもには年下への思いやりを育み、年下の子どもが刺激を受けて周囲への関心を広げられるよう見守りながら関わっています。子どもが興味を示した活動には無理なく参加できるようサポートしています。給食では世界の料理や国内各地の郷土料理を取り入れ、日本地図に写真を掲示して関心が深まる工夫をしています。最近では、ガバオ風ライスや鮭のちゃんちゃん焼きを提供しています。</p> <p>就学支援として、小学生との交流や保護者への就学情報提供を行っています 配慮が必要な子どもの受け入れ体制として、状況に応じて職員を加配し、その子が安心して過ごせる環境を整えています。療育センターなどの専門機関と連携し、助言を受けながら適切な支援を行っています。けんかやトラブルへの対応は、双方の話を聞くことを基本としています。また、就学に向けては小学校と連携し、学校訪問時に1年生との交流活動を実施するとともに、保護者に向けて就学に関する情報交換の機会を設けています。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した教育・保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう指導・援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

登降園時の対面やICTアプリを活用し、子どもの様子を保護者と共有しています
 登園時には保護者から体温や健康状態を確認し、特に前日体調が優れなかった子どもについては詳しく聞き取っています。把握した情報は伝達表に記録し、職員間で確実に引き継いでいます。0～2歳児クラスでは、連絡帳を毎日取り交わし、午睡時間・食事量・排泄・一日の様子を細かく記載しています。降園時には、健康状態や活動内容を保護者に対面で報告し、成長のエピソードも伝えています。3～5歳児については、ホワイトボードを活用し、その日の活動や子どもたちの様子を保護者と共有しています。

発達段階に応じた生活習慣の支援を、日常保育の中でいねいに実践しています
 子どもの発達段階に応じた支援方法は、個人記録・指導要録・年齢別年間保育計画などに示しています。具体例として、食事指導では栄養士と職員が連携し、遊びの中で箸の使い方を取り入れています。排泄指導は1歳児クラスから個々の発達に応じてトイレへ誘導し、便座に座ることから始めます。歯磨き指導は区の歯科衛生士が年1回来園して行います。着替えは0～2歳児では寄り添いながら援助し、3～5歳児では様子を見守り自立を促しています。

年齢に応じた午睡時間を設け、5歳児から就学を見据えて調整しています
 0歳児は11時45分から14時45分、1・2歳児は12時から15時、3～5歳児は13時50分から15時15分を目安に午睡時間を設定しています。寝具は、0～2歳児は布団・ブランケット、3～5歳児はコット・布団・掛け布団を使用しています。午睡中に眠れない子どもは、静かに過ごしたり横になって体を休めたりしています。さらに、5歳児は就学に向けて1月中旬から午睡をなくすなど、年齢や成長に応じた対応を行っています。

3 評価項目3 日常の教育・保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう指導・援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがまじりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

英語・体育・造形などの集団活動を通して、子どもの主体性と協働性を育てています
 子どもの集団活動として、英語・体育・造形・発表会を行っています。英語は歌やゲーム、絵本を通して実施し、体育は専門講師がホールや園庭で指導しています。造形は3～5歳児を対象に、導入や遊びの中での活動、役割分担を取り入れ、主体性を引き出す工夫をしています。子ども同士の話し合いの場も設け、互いに納得できるように関わっています。帰りの集まりでは、トラブルを振り返り、気持ちを調整する力を育てています。

ダンスや楽器遊び、季節の制作を通じて、さまざまな表現力を育てています
 子どもが言葉に興味を持てるよう、乳児期には積極的に声をかけ、幼児期には身近な話題をもとに会話を広げています。身体表現としてダンスや劇ごっこを取り入れ、音楽活動では楽器遊びを行っています。子どもの関心に応じてタンバリンや鈴を用意し、3～5歳児はピアノにもふれています。また、年齢や活動に合わせた教材を用い、季節の制作や自由制作を通して豊かな表現力を育てています。

自然豊かな園庭で、季節の生き物や植物にふれる体験を大切にしています
 3～5歳児は主に広い園庭で過ごし、0～2歳児は月1～2回程度、近隣の公園や川沿いの遊歩道へ散歩に出かけています。園庭では、0～2歳児は滑り台・砂場・築山・ボール遊びを楽しみ、3～5歳児はアスレチック・サッカー・鉄棒・木登りなどに取り組んでいます。また、桜・みかん・柿・梅・びわ・ザクロなどの植物や、ピオトープでのおたまじやくし観察なども体験しています。夏には水遊びや泥遊びも楽しんでいます。公園では遊具遊びや落ち葉拾いを行っています。そのほか、カブトムシや蝶の幼虫など、季節の生き物の飼育も行っています。

4 評価項目4 日常の教育・保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>発表会などの行事では、子どもたちが意見を出し合いながら内容を決めています</p> <p>行事では運動会・発表会・造形作品展に加え、5月節句・七夕・夏祭り・クリスマス会・正月遊び・ひな祭りなど季節の行事も実施しています。発表会では、草や小道具・衣装を制作し、劇・手品・ペープサート・ダンスなどの内容をグループで話し合って決めています。5歳児は自分たちで内容を考え、4歳児は絵本の世界を広げ、3歳児は絵本や憧れをもとに取り組んでいます。さらに、ナイト保育では5歳児がカラー作りやすいか割り、お化け屋敷などを体験し、協力する喜びを味わっています。行事後には振り返りの時間を設けています。</p> <p>保護者の理解と協力を得るために、年間行事予定表を年度初めに配布しています</p> <p>行事の準備や実施にあたっては、4月に年間行事予定表を配布し、各行事の目的を園だよりや保護者会で保護者に伝えています。保護者が参加・見学できる行事として、運動会・発表会・造形作品展・お楽しみ会を開催しています。参加できない場合も、写真の販売や園だよりで様子を紹介しています。また、運動会・発表会・お楽しみ会ではアンケートを実施し、保護者の意見を次の行事運営に活かしています。</p> <p>誕生日会ではランチプレートを用意し、行事の雰囲気盛り上げています</p> <p>子どもの誕生日は、0～2歳児は園児のみで、3歳児以上は誕生日の保護者も参加してお祝いしています。誕生日会では、個別インタビューや誕生日の歌、季節の歌、職員の出し物などを行います。写真や手形、メッセージを添えた誕生カードを贈り、行事メニューとしてランチプレートの給食も用意しています。誕生日は自分で選んだ色のワッペンを付け、主役として喜びを感じられるようにしています。</p>		
5 評価項目5 在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 在園時間の異なる子ども同士が楽しく遊べるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 在園時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 在園時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>安心できる環境と個別の配慮により、子どもの気持ちの安定を支えています</p> <p>保育室には畳コーナーやクッション、ままごと用ソファを設け、子どもが気持ちを落ち着けたいときに座れる環境を整えています。職員を加配し、適切に援助できる体制も整えています。また、疲れた子どもが休めるよう、一人用ソファやカメのいる通路スペースを活用し、それぞれの状態に合わせて過ごせる工夫をしています。</p> <p>延長保育の時間も安心して過ごせるよう、体制と環境を整えています</p> <p>18時から20時を延長保育時間とし、0～2歳児は15時、3～5歳児は17時15分から合同で保育を行っています。合同保育は1歳児室・3歳児室で実施し、パズルやブロック、制作などの遊びを用意しています。補食は年齢に応じた内容と量で、夕食は食べやすさに配慮しています。延長保育は乳児・幼児担任と非常勤職員の計3名で対応し、子どもの様子に目を配り安全に過ごせるようにしています。</p>		

6 評価項目6 子どもが食事を楽しめるよう配慮している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当	
●あり ○なし	2. 園で提供する食事は、メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当	
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	○非該当	
評価項目6の講評			
<p>ゆとりある食事環境と、一人ひとりに寄り添う関わりを大切にしています</p> <p>食事は各保育室で行い、落ち着いた空間でゆったり食べられるよう配置を工夫しています。3～5歳児では行事の際も、配置を変えて楽しい雰囲気で作られるよう配慮しています。職員は完食を求めず、子どもが食べたいものから食べられるよう寄り添っています。栄養士や調理師も各保育室を巡回し、日々の喫食状況を確認しています。</p> <p>献立は和食・洋食・麺類をバランスよく取り入れ毎日の食事を楽しめるようにしています</p> <p>食材選びや献立では、和食・洋食・麺類などをバランスよく取り入れています。調理や配膳では、見た目も食欲がわくような工夫を行い、食器や食具も内容に応じて使い分けています。食物アレルギーのある子どもには対応マニュアルに基づき、家庭から該当食材を持参して対応しています。0～2歳児は個別机で職員が付き添い、3～5歳児は席の配置を工夫して見守り、配膳はトレーで区別するなど誤食防止に取り組んでいます。宗教や家庭の価値観にも配慮し、弁当持参にも対応しています。</p> <p>栽培や調理体験を通じて、食への関心や理解を深められるよう取り組んでいます</p> <p>食育活動では、野菜や魚にふれたり扱ったりすることで、食材への関心が高まるようにしています。園内ではプランター栽培を、畑ではさつまいも掘りを体験しています。調理体験は1歳児からそら豆のさや出しを行い、5歳児はおたのしみ会でカレーの野菜切りなどに取り組んでいます。また、5歳児は当日の食材を三色食品ボードに掲示し、栄養への理解を深めています。献立には郷土料理や世界の料理を取り入れ、地図で場所を示すなど、子どもの関心が広がる工夫もしています。</p>			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう指導・援助している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように指導・援助している	○非該当	
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組みを行っている	○非該当	
評価項目7の講評			
<p>安全や健康に関心を持てるよう、防災訓練・手洗い指導・歯磨き指導などを行っています</p> <p>子どもが自身の健康や安全に関心を持てるよう、防災訓練は地震や火災を想定して毎月行い、防災頭巾の使い方や煙体験、水害を想定した垂直避難訓練も実施しています。区民活動センターとの合同訓練や消防車の見学、職員の消火器体験も取り入れています。防犯訓練では警察と連携し、不審者対応を行っています。健康指導では、手洗いの歌を使った活動や歯科衛生士による歯磨き指導を実施しています。また、園内の危険箇所や怪我しやすい場所を子どもにも伝え、遊び方を一緒に考えることで事故防止につなげています。</p> <p>子どもの健康状態を把握するため、定期的に内科健診や歯科検診を実施しています</p> <p>子どもの健康状態を把握するため、嘱託医による0歳児健診を毎月2回、内科健診と歯科検診をそれぞれ年2回実施しています。与薬は基本的にありませんが、熱性けいれんや食物アレルギー、皮膚炎などの場合は、医師の指示に基づく予約指示書の提出により薬を預かり対応しています。</p> <p>保護者に保健情報を提供するとともに、職員は感染対策やSIDSの予防に努めています</p> <p>保護者と連携し子どもの健康維持に取り組むため、保健だよりを発行し、毎月の健康管理や流行する病気の注意点を伝えています。保護者会には看護師が出席し、季節に応じた健康管理や離乳食の進め方などを説明しています。職員は嘔吐処理やAEDの使用、救命救急の研修に参加し、理解を深めています。感染症発生時には掲示や一斉メールで情報提供を行います。午睡時は0～2歳児は担任、3～5歳児は付き添い職員が見回り、チェック表に記録して健康状態を確認しています。入園説明会でも看護師などが取り組み内容を説明しています。</p>			

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 保護者には、生活形態や子育ての考え方の違いなど、個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当	
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の教育・保育の活動への参加を促している	○非該当	
評価項目8の講評			
<p>個別面談や行事アンケートなどを通じて、保護者の意向を定期的に把握しています</p> <p>保護者に対しては、「家庭や地域社会と連携した保育と教育を一体的に行う」ことを基本方針としています。接遇マニュアルを整備し、職員会議やクラスで共有することで理解を深めています。子育てや就労状況に配慮するため、就労状況確認書や個別面談で保護者の状況や価値観を把握しています。行事アンケートや区の満足度調査、保護者会などを通して日常的に意向を確認し、直近では行事の参観人数を見直しました。</p> <p>保育参加や参観、面談の機会を通して、保護者との信頼関係の構築に努めています</p> <p>保護者と職員の信頼関係を深めるため、保育参加は年1回実施し、3～5歳児は誕生日会への参加としています。保育参観は年4回、日常の生活や英語・造形・体育の様子を公開し、個別面談は年2回、保護者会は年2回クラス別に行っています。開催日は保護者会と参観を可能な限り同日に設定し、保護者の負担が少なくなるよう配慮しています。また、0～2歳児クラスの保護者会では、子どもに関するクイズを取り入れ、交流の機会を設けています。</p> <p>保護者会や面談を通して子育て観を共有し、相互理解を深める機会としています</p> <p>子育ての考え方について互いの理解を深めるため、保護者会や個別面談では「寝る時間が遅い」「言うことを聞かない」などのテーマで意見交換を行っています。日常の子育てに関する悩みや工夫を共有することで、保護者同士や職員との理解を深めています。年1回の保育士体験では、保護者が子どもとふれ合い、絵本の読み聞かせなどを体験することで、保育内容への理解と安心につながっています。</p>			
9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当	
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当	
評価項目9の講評			
<p>地域行事や交流活動を通して、さまざまな人とふれあう機会を大切にしています</p> <p>地域との交流の機会として、地域で行われる「弥生祭り」に参加し、子どもたちの作品も展示しています。また、散歩の途中で近くのバスの整備場を通った際には、バスの乗車体験をさせてもらうこともあります。5歳児は、就学に向けて小学校主催の交流会に参加しています。運動会や発表会には地域の方も招待し、地域との関わりを深めています。さらに、保育実習生の受け入れも行っていきます。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-6	子どもが食事を楽しめるよう配慮している
タイトル①	栽培や収穫体験を通じ、食べ物への関心と食べることの大切さを育んでいます	
内容①	食材を身近に感じ、育つ過程や収穫の喜び、食べることの大切さに気づけるよう、栽培や収穫を取り入れた食育を行っています。各クラスでは、ナス・オクラ・さつまいも・イチゴ・メロン・トウモロコシなど、育てたいものを話し合いながらプランターで育てています。収穫した野菜は給食で味わい、5歳児は園庭の果樹の収穫のほか、梅ジュースや梅干し作りにも取り組みます。また、花を使った色水遊びなどに発展する場面もあり、育てる・収穫する・味わう体験を重ねることで、食べ物への関心や食べることの大切さを育んでいます。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の教育・保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	英語・体操・造形を日常の保育や行事に取り入れ、表現力や関心を広げています	
内容②	「英語・体操・造形」のプログラムは、日常の保育や行事と切り離さず、保育の流れに取り入れながら子どもの育ちを支えています。体操ではホールや園庭で体を動かし、日々の経験が運動会や発表会での動きや表現につながっています。造形では講師による活動に加え、廃材遊びなども取り入れ、子どもが思いやイメージを形にする中で表現の楽しさや工夫する力を育んでいます。英語は歌やゲーム、絵本を通して異なる言葉や文化に親しみ、遊びや表現の幅を広げています。各プログラムを保育の流れに組み込み、子どもたちの関心や経験につなげています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-1-3	事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる
タイトル③	研修への積極的な参加と職員間の意見交換を通して、保育力の向上に努めています	
内容③	職員の保育力を高めるため、外部研修を積極的に活用しています。区の研修では、階層別研修や保育の質ガイドラインに関する研修に参加し、園での保育に生かせる知識や技術を学んでいます。また、区私立幼稚園連合会主催の研修では、年間を通じてテーマを設定し、年度末には学んだ内容を発表する機会を設けています。園内では、外部研修で得た知識や実践例を職員間で展開し、発表する形で共有しています。さらに、研修や各種会議の中で意見交換の時間を設け、日頃の子どもの関わり方や行事の内容・実施方法について話し合う機会を持っています。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもが選び、試し、遊びを広げられる環境づくりと見守りを大切に、主体的な育ちを支える保育に取り組んでいます
	内容	子どもが主体的に遊びに取り組めるよう、環境設定と職員の関わりを工夫しています。0～2歳児には発達に応じた玩具を用意し、落ち着いて過ごせる場と体を動かして遊べる場を整えています。3～5歳児はやりたいことを自分で選び、室内外で遊びを広げています。廃材は写真付きで分類し、子どもが自分で選べるようにしています。制作物は途中で続けられるよう工夫し、作品は写真に残して次の挑戦に生かしています。職員は子どもの興味を受け止め、無理なく関わられるよう見守りながら、子どもが自分で考え、選び、遊びを広げられるよう支えています。
2	タイトル	自然豊かな園庭でふれあいや体験を重ねる中で、子どもたちは自ら考え、観察し、試す力を育み、興味や関心を広げながら学びを深めています
	内容	自然豊かな園庭を生かし、子どもたちは日常的に季節の変化や自然物にふれています。春は園庭での探索やピオトープでの生き物観察、夏は水遊びや泥遊び、秋は落ち葉や木の実など自然の移ろいを感じる活動、冬は雪遊びなど、その季節ならではの体験が日々の遊びにつながっています。さらに、園庭で実る梅・柿・びわ・みかん・さくらんぼ・ぶどうなどを収穫し、食への関心につなげる体験も行っています。こうした日々の自然とのふれあいや体験を重ねる中で、子どもたちは自ら考え、観察し、試す力を養い、興味や関心を広げながら学びを深めています。
3	タイトル	運動遊びや造形活動に加え、看護師・栄養士による育児相談や給食体験など、多彩なプログラムで地域の子育て支援の充実に取り組んでいます
	内容	地域貢献の取り組みとして、入園が決まった家庭を対象に子育て支援「ばんだ組」を毎週木曜日に実施しています。内容は園庭での戸外活動や運動遊び、プール遊びに加え、造形活動も取り入れています。また、看護師による健康相談や栄養士による栄養相談など、専門性を生かした支援や助言も行い、保護者の子育ての安心や学びにつなげています。さらに、今年度からは給食体験会も実施しました。そのほか、保育実習生や小学生の職場体験の受け入れなど、地域とのつながりを広げる取り組みも行っています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもの主体性を尊重した保育の考え方をまとめ、園全体で共通理解を図りながら、日々の保育に活かしていきたいと考えています
	内容	「子ども主体の保育」を推進するため、子どもが自分で遊びや活動を選べる環境づくりに取り組んでいます。そうした中で、職員の経験や知識、スキルの違いから、受け止め方には差があり、園としての考え方や実践の方向性を十分に共有できていないことを課題としています。そこで園の理念と子どもの主体性を尊重した保育の関係について、話し合う場を定期的に設け、園の指針としてまとめていく予定です。また、実践と振り返りを繰り返しながら、職員全体で理解・共有することで、日々の保育の質向上につなげていきたいと考えています。
2	タイトル	地域資源をさらに活用し、子どもたちが地域とふれあい、学びや社会性を育む機会をより充実させることが期待されます
	内容	地域とのふれあいの機会として、5歳児の小学校との交流会や地域の祭りでの作品展示を行っています。また、運動会・発表会に地域の方を招待し、保育実習生や職場体験の受け入れも実施しています。ただし、こうした機会は限られており、日常の交流としてはバス整備場の見学などにとどまっています。今後は、買い物体験や高齢者施設、併設している地域活動センターとの交流など、地域資源をさらに活用し、子どもたちが地域とふれあい、学びや社会性を育む機会をより充実させることが期待されます。
3	タイトル	事業計画の共有方法を見直し、職員の理解を深めることで、計画に基づいた取り組みを着実に進めていくことが望めます
	内容	中・長期の計画は、3年を単位とした計画として策定しています。単年度の計画は、前年度末に園長・主任を中心に作成し、その内容は年度初めの職員会議で、職員に伝えていきます。ただし、職員自己評価の設問「取り組み期間に応じた計画の策定」では、リーダー層・一般職員ともに「そう思う」が30%を下回っており、計画の内容や意図が十分に共有されていない状況がうかがえます。今後は、事業計画の共有方法や説明の機会を見直し、職員の理解を深めることで、計画に基づいた取り組みを着実に進めていくことが望めます。